

## あの日の頃 - 3

創立のころ

小野せつ子

第一号、二号の後をうけて、昭和三十二年頃からの記事を書くようにとのことで、改めて往時を思い起こし、三十年を経てきた重みを感じました。

卒業生にお会いすると、学校も随分変わりましたね。とよく言われます。発展したという意味で言っておられると思いますし、私もその都度、「そうだ」と思います。ところが、思い起こしてみると、昔も今と余り変わらないことをやっていたように思います。確かに、若い学校で、組織化されていなかったり、研鑽不足のものもあったと思いますが、

当時クラブ活動などはありませんでしたが、跳び箱、ボールなどよく運動しました。土曜の午後という男子全員、サレジオのグラウンドで野球に興じていました。今の体育館の場所が畑で不自由でしたが、まだオリベッティもなく広々としたサレジオ教会のグラウンドは我が家の庭とばかり自由に使っていました。若い学校は先生方も若さに溢れ、シスターも体育の授業を活発になさっていました。

横尾先生をはじめ、先生方も子どもたちとよく遊び、下校の時間が延びてしまうのもおかまいなし。先生も児童も大らかなものでした。毎朝のラジオ体操も男児が号令台に立って、全体の指揮をしていました。

又、委員会活動もありませんでしたが、お昼の校内放送も六年生が自主的に計画し、お話をきかせたり、音楽を流したりしていました。

現在の合宿は、三年生から六年生まで、学校の目的に応じた場所で実施されていますが、当初から変わらないのが山中湖です。当時の宿舎は星美ホーム(幼児の施設)の方でしたが、湖の水もきれいで、宿舎から水着を着て行き、水に入るとは、はしゃいだものでした。子どもたちの引き上げたあとの静かな湖面には、遥かに小さく点々とビーチボールが見えました。子どもたちが遊んでいるうちに風に流され、やがて向う岸にたどり着いたものです。小さなまりもが水辺にみつかったこともありました。

こうして考えてみると、変わったとか変わらないとか言うことばの中に、世の移り変わりも含めて深い思いがあるように思います。(づつく)

【同窓会報、第3号・昭和58年11月1日発行・から転載】